

【2026新春企画】実施報告

おみくじで運試し&オンライン神経衰弱で遊ぼう

2026年、午年の新春企画として、館内企画とオンライン企画をそれぞれ実施しました。

館内企画では午年にちなんで、「うまくいく！おみくじ」というおみくじを作成しました。国語科の宮本淳子准教授と研究室の方々と全面協力し、作成したおみくじは全100種類！「駅伝」「群馬」などといった馬にちなんだ言葉とおすすめ本を掲載しました。500人以上の方に引いていただき、おみくじの箱を支えていた紐には多くのおみくじが結ばれていました。我々が意図していない、柔軟な使い方に驚かされました。

オンライン企画では、図書館所蔵のデジタルアーカイブを活用して、絵合わせを作成しました。新年ということで、めでたい七福神+宝船、全8種類をデジタルアーカイブから切り抜き、絵合わせの裏面として使用しました。表面には図書館公式キャラクター、まなぶんぶんの馬バージョン、「うまぶんぶん」をあしらいました。使用した所蔵資料や七福神についての紹介も閲覧でき、CPUに勝利すると御朱印風画像が貰えます。国立国会図書館のニュースサイトにも紹介され、400回以上遊んでいただきました。



どちらからでも
絵合わせをお楽しみいただけます！
<https://lib.u-gakugei.ac.jp/mol/shichihukueawase>



初めまして、
「うまぶんぶん」です！
よろしくね！

2025学びの秋企画

「学芸本ガチャ！」を開催しました！

2025年10月14日から12月26日まで、2025学びの秋企画「学芸本ガチャ！～読書の世界を広げよう！～」を開催しました。この企画は2022年より定期開催しており、電子ブックの利用促進と、ふだん手に取らない本との出会いを楽しんでもらうために行っているものです。

オンラインガチャでは、図書館Webサイトで公開している「オンラインガチャ」を回すと、ランダムに電子ブックが1冊選ばれ、OPACの詳細画面が表示されます。今回は新たに「算数・数学」ガチャが加わり、公開中のガチャは全11台になりました。今後もテーマの追加や内容更新を予定しています。

図書館1階には木製の「リアルガチャ」を設置しました。カプセルには「棚番号Nの左からA列目・上からB段目・左からC冊目」といった本の位置情報が入っており、ヒントを手がかりに棚から本を探すわくわく感を楽しんでいただきました。見つけた本について書いていただいたコメントは、「学芸本ガチャで出会った本」コーナーで掲示し、参加者同士が発見を共有できる場になりました。

2025学びの秋企画

学芸本ガチャ！



2. オンラインガチャ一覧



NEW！【2025年10月14日公開】
算数・数学に関する
本が入っています。



【2025年04月11日公開】
大学生の生活に関する
本が入っています。



【2024年10月15日公開】
美術や音楽などアートに
関する本が入っています。

次回の春企画は4月10日スタート予定です。
どうぞお楽しみに♪

「第11回S×UKILAM連携：多様な資料の教材化ワークショップ」オンライン開催

2025年12月26日、「第11回S×UKILAM連携：多様な資料の教材化ワークショップ」がオンラインで開催されました。このワークショップは、学校、地域施設、企業、図書館、博物館、美術館などの関係者が集まり、図書館等にあるデジタルアーカイブ資料を活用して学校教材を開発する企画で、今回は当図書館職員も含め、年の瀬に全国から110名を超える参加者がありました。

今回から教材づくりのサポートスタッフとして「DA（デジタルアーカイブ）コンシェルジュ」がチームごとに配属され、資料の探索補助や、資料を二次利用する場合の手続き確認をリアルタイムで行いました。参加者からは「教材作成に集中できる」「全チームに司書が常駐しているようだ」と大好評でした。

次回第12回は、**2026年7月28日（火）**に東京学芸大学附属図書館でリアル開催します。本学学生の皆様もぜひご参加ください。今後も毎年夏は図書館でリアル開催の予定です。

講習会

「デジタル教科書って一体どんなもの？」

2025年12月1日（月）、光村図書出版株式会社から講師をお招きし、小学校高学年の国語のデジタル教科書を使用した講習会「デジタル教科書って一体どんなもの？」を開催しました。参加者は学生7名、教職員8名でした。

セミナーではまず講師から、日本の教育におけるデジタル教科書の位置づけと今後の見通しについて概要のご説明があり、国の施策、法整備の状況、学校現場での普及状況、文部科学省で検討中の展望などについて詳しくご紹介いただきました。

そして、デジタル教科書の「マイ黒板」機能や書き込み機能などについて講師にご説明いただいた後、参加者によるワークショップを行いました。参加者同士での話し合いを交えながらデジタル教科書を手持のPCで実際に操作することで、参加者には、学校の授業における効果的な活用方法について理解を深めていただけたと思います。

アンケートでは「デジタル教科書を使いたくても機能を知らなければ活用できないため、とても勉強になった」などの感想が寄せられました。



edumotto

×

附属図書館

2024年度より東京学芸大学公式ウェブマガジン教育を面白くするメディアedumotto(エデュモット)と連携企画を行っています。2025年度秋学期にはブックトークと展示企画を行いました。

〈ブックトーク〉

edumottoメンバー6名で図書館2階グループ学習室を使ってブックトークを行いました。

メンバーのコメント

「ブックトークで取り上げる本を館内で歩きながら探した。思いもよらない本に出会えたので、空間としての図書館の良さを感じた。」

「普段はedumottoの活動の話になりがちだが、ブックトークで本を見ながら話すことで、メンバーそれぞれの感じ方や考え方を知ることができ、いつもとは違うコミュニケーションを取れたのがよかった。第二回も開催したい。」



〈展示〉場所：図書館1階カウンター横
edumottoで公開されている記事とその関連本を紹介する展示を行っています♪

10月24日からは、農業、ドイツ教育改革、ゲーミフィケーションの3つのテーマでそれぞれ2冊ずつ厳選し、紹介しています。

今後はテーマを変えて展示企画を継続予定です。ブックトークで取り上げられた本の展示も絶賛準備中！

これからのコラボもお楽しみに！！

お知らせ

新着雑誌の配置が
(一部) 変わりました



利用者の皆さまに、より気軽に雑誌を手にとっていただけるよう、このたび一部の**新着雑誌を1階グローバルエリア**へ移動しました。

読書や勉強の合間にリフレッシュできる、幅広いジャンルの雑誌をご用意しています。

どうぞお気軽にご利用ください。

新しい配置場所と対象雑誌についての詳細は、図書館ホームページ「[お知らせ](#)」をご確認ください。



大学史資料室展示を開催しました

大学史資料室において、以下の展示を開催しました。

- ・ 師範学校における学びと生活（2025年10月14日～12月19日）
- ・ 師範学校附属国民学校における学童集団疎開の日常（2026年1月14日～4月3日）

いずれの展示も、本学の前身である師範学校や学童集団疎開に関する資料・写真を展示し、多くの方にご来場いただきました。

「師範学校における学びと生活」では、専門研究員および博物館実習生が展示資料を解説するギャラリートークを実施しました。多くの参加者が解説に熱心に耳を傾け、当時の教育や生活について理解を深めました。



[図書館ウェブサイト](#) >
[大学資料室](#) > 展示



令和7年度秋学期学習サポート活動報告

学習サポート展示企画『感情博物館～今の気分とこれからの気分～』が、2026年1月29日から7月まで、図書館1階ラーニングコモンズにて開催中です。



この展示では、大学生が直面しやすい心の揺れや迷いに着目し、感情をテーマに本を紹介しています。自身の感情をコントロールするための感情リテラシーについて学び、今の感情やこれからの感情と向き合うきっかけを作れるよう展示を構成しました。あなたの今の気分に合う本は？どんな気持ちになりたいから本を読む？学習サポートなりの「感情の輪」を表現し、人それぞれの感情との向き合い方を提供しています。

また、来館者参加企画としてアンケートを設けています。

今の気分、これからの不安、それぞれの関心事に向き合い、本を通して感情を捉え直す場になれば幸いです。皆様のご来館・ご参加をお待ちしております！



附属学校の学びの成果をご紹介します

附属高等学校『10代がえらぶ海外文学大賞』

附属図書館では、各附属学校司書の協力のもと、児童・生徒の皆さんが日々の学習や活動を通して制作した成果物を、1階学校図書館コーナーにてご紹介しています。

12月16日からは、附属高等学校による『10代がえらぶ海外文学大賞』（一般社団法人青少年読書推進機構）の関連展示を実施しました。

この展示では、同賞のノミネート作品を紹介する図書委員が作成したPOPを掲示するとともに、附属高等学校で1位に選ばれた作品を、展示ならではの仕掛けで紹介しました。POPには高校生の視点による“押し作品”の見どころが表現されており、ふだん海外文学に触れる機会が少ない人でも、思わず興味が湧いてくる内容となっていました。

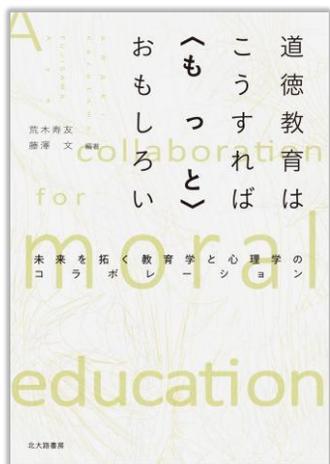


展示は定期的に入れ替えを行っており、各附属学校の特色が表れた作品を見ることができます。図書館にお越しの際は、ぜひ子どもたちの学習・活動の成果ものぞいてみてください。

< 参考 >

[『10代がえらぶ海外文学大賞』ウェブサイト](#)





『道德教育はこうすれば
〈もっと〉おもしろい』

荒木寿友 編著
藤澤文 編著

(北大路書房, 2019年12月)
ISBN: 9784762830891
請求記号: 375.3/A64

小学校教員時代に全教科を教える中で、私が一番難しいと感じていたのが道徳の授業でした（だからこそ、奥深くて追究し甲斐があります…！）。きっと同様に、教育実習等で「道徳の授業がうまくいかない！」と悩む学生も多いのではないのでしょうか。そんな悩みを抱える方をはじめ、将来教員を目指す皆さんにぜひ手に取っていただきたいのが、『道徳教育はこうすれば〈もっと〉おもしろい』（荒木寿友・藤澤文 編著）です。道徳教育や道徳心理学を一から学ぶ理論書として、また明日の授業に向けた実践のヒントを得るための本として、双方の目的を叶えてくれる稀有な一冊だからこそ、この本をお薦めします。

道徳教育は、哲学・倫理学、心理学、教育学など様々な学問が混ざり合う総合的な領域です。数ある書籍の中でも、本書は「教育学」と「心理学」のコラボレーションという珍しい切り口を持ちます。そして、題名のとおり「おもしろい」道徳教育を考えるヒントが数多く載っています。実際、私のゼミの院生が、この書籍をヒントに「多文化共生」に関する道徳授業を学校で実践したこともありました。

第1部では教育学の視点から学習指導要領における道徳教育の捉え方を、第2部では道徳心理学の観点から、認知、情動、利他行動、パーソナリティ、発達などの最新研究を分かりやすく解説しています。第3部では、実際の授業展開として15本の学習指導案を掲載しています。オーソドックスな展開から、「モラルジレンマ授業」や「哲学対話」といった討論中心の手法、さらには特別支援学校や高校での実践まで、多彩な指導案が収録されているのが魅力です。

興味をもった方はぜひ、実際に手に取ってみてください。

東京学芸大学附属竹早小学校・中学校 図書館(メディアセンター)紹介

附属竹早小学校・中学校は、ひとつの図書館(メディアセンター)を共用しています。昨夏に改装工事が行われたので、明るく生まれ変わった様子をご紹介します。

これまでは1クラス分の人数しか着席できなかったため、主に午前小学生・午後中学生と、利用できる時間が限られていました。改装後は高書架を1列分ずらして反対側の空間を広げることで、もう1クラス分の机と椅子を置くことができるようになりました。これにより2クラス同時授業が可能となり、場の制限によって図書館活用を諦める…といったことがなくなり、利用の幅が広がりました。

古いカーペットも全面張り替えたことで、きれいで明るい印象となり、来館する児童生徒たちも喜んでいきます。小・中の書架エリアを違う色のカーペットにしたので、低学年児童や初めて図書館を訪れる人にも、視覚的に蔵書の対象年齢がざっくりと把握できるようになりました。窓辺にカウンター風の座席を作ったり、グリーンや小物を飾ったりと、利用者が居心地の良さを感じられるように、現在も少しずつ進化中です。

読書・学習活動だけでなく、仲間との憩いの場として、そして羽を休める場所として、図書館が子どもたちの心に寄り添える場であればいいと思います。

(文責：東京学芸大学附属竹早中学校
学校司書 中村誠子)



図書館
かわら
ばん

図書館かわらばん No. 15

2026年3月27日 発行

東京学芸大学附属図書館

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

TEL:042-329-7223 FAX:042-329-7226

URL:<https://lib.u-gakugei.ac.jp/>

東京学芸大学附属図書館公式Xでは図書館に関わるお知らせについていち早く発信しています。



www.twitter.com/gakugei_lib